

NPO関西事業再生 支援センターだより  
大阪の 中小企業を 元気に!  
>272<

前回は、iPhone、AndroidなどのスマートフォンやiPadなどの情報端末が、急速に普及が進んでいる時代背景を捉えた、地域アプリによる地域活性化の取り組みについて書きました。

簡単に書けば、今まで高価だった地域アプリの開発費用が一気に安価になったこと、スマートフォンなどの情報端末が急速に普及したおかげで、どの商店街でも地域アプリで簡単に、地域の活性化に取り組みやすくなったということです。

ITによる革新が起こる、ネット上で購入をしたと、一概には言えないので、駅前商店街が利用されなくなり、閉店が相次いでしまったもので、業界やITの活用に取り組みます。

しかし、前回取り上げた地域アプリを使えば、逆に、ショップピッキングセンターやネット商店街にカウンターパソコンをかけることもできる可能性が出てきます。

# IT活用で地域の活性化

方法としては、これまで、告を打つ予算はないと思われ、負け組が勝ち組に変わる可能性があります。

駅前やショップピッキングセンターに逃げたお客さん、新開チラシでもいいので、駅前や商店街、さらには店頭やポスターで地域への宣伝を信でできます。

「シャッター商店街」の問には店頭のポスターで地域への宣伝を信でできます。それに、費用はわずかで、ホームページ(HP)を作るより、

「シャッター商店街」の問には店頭のポスターで地域への宣伝を信でできます。それに、費用はわずかで、ホームページ(HP)を作るより、

「シャッター商店街」の問には店頭のポスターで地域への宣伝を信でできます。それに、費用はわずかで、ホームページ(HP)を作るより、